

旭川工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	電気情報演習 B
科目基礎情報				
科目番号	0065	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電気情報工学科	対象学年	4	
開設期	後期	週時間数	後期:2	
教科書/教材	演習用プリント			
担当教員	嶋田 鉄兵,吉本 健一			

到達目標

- 4年生前半までに習った知識を活かして、回路系の応用問題を解くことができる。
- 4年生前半までに習った知識を活かして、電気電子系の総合問題を解くことができる。

ループリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	回路系の応用問題を正しく解ける。	回路系の応用問題を解ける。	回路系の応用問題を解けない。
評価項目2	電気電子系の総合問題を正しく解ける。	電気電子系の総合問題を解ける。	電気電子系の総合問題を解けない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 電気情報工学科の教育目標① 学習・教育到達度目標 本科の教育目標③

JABEE A-2 JABEE D-1 JABEE D-2

JABEE基準 (d) JABEE基準 (e) JABEE基準 (g) JABEE基準 (h)

教育方法等

概要	4年生前期までに習った知識を活かして、前半は回路系の応用的な問題を中心に出题し、後半は電気電子系の総合問題を出题するので、これらを4年生前期までに習った知識を活かして解くことで、理解の不確かな部分を補填し、基礎力の充実を図ると共に専門に対する能力を高める。
授業の進め方・方法	授業では、まず習った知識の復習を兼ねて、演習に関する基本部分の解説を行い、その後演習問題を自ら解くことで、知識を高めるとともに、解法技術を高めていく。
注意点	・教育プログラムの学習・教育到達目標の各項目の割合は、A-2、D-1、D-2とする。 ・総時間数45時間（自学自習15時間） ・自学自習時間（15時間）は、日常の授業（30時間）に対する予習復習、レポート課題の解答作成時間、試験のための学習時間を総合したものとす。 ・評価については、合計点数が60点以上で単位修得となる。その場合、各到達目標の到達レベルが標準以上であること、教育プログラムの学習・教育到達目標の各項目を満たすことが認められる。 ・この科目は、問題を解く力を高めるのが目標であるので、授業中に演習を解くことはもちろんのこと、演習課題も多く出される。これらの演習課題等は評価につながるものであるため、提出期限を守り、必ず提出すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	回路系の応用問題の演習①	回路系の応用問題が解けるようになる。
		2週	回路系の応用問題の演習②	回路系の応用問題が解けるようになる。
		3週	回路系の応用問題の演習③	回路系の応用問題が解けるようになる。
		4週	回路系の応用問題の演習④	回路系の応用問題が解けるようになる。
		5週	回路系の応用問題の演習⑤	回路系の応用問題が解けるようになる。
		6週	回路系の応用問題の演習⑥	回路系の応用問題が解けるようになる。
		7週	回路系の応用問題の演習⑦	回路系の応用問題が解けるようになる。
		8週	中間試験	学んだ知識の再確認と修正ができる。
	4thQ	9週	電気電子情報系の総合問題の演習①	電気電子系の総合問題が解けるようになる。
		10週	電気電子情報系の総合問題の演習②	電気電子系の総合問題が解けるようになる。
		11週	電気電子情報系の総合問題の演習③	電気電子系の総合問題が解けるようになる。
		12週	電気電子情報系の総合問題の演習④	電気電子系の総合問題が解けるようになる。
		13週	電気電子情報系の総合問題の演習⑤	電気電子系の総合問題が解けるようになる。
		14週	電気電子情報系の総合問題の演習⑥	電気電子系の総合問題が解けるようになる。
		15週	電気電子情報系の総合問題の演習⑦	電気電子系の総合問題が解けるようになる。
		16週	学年末試験	学んだ知識の再確認と修正ができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他（演習・レポート）	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	15	0	0	0	0	10	25
専門的能力	45	0	0	0	0	30	75
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0